



3月13日まで

# へいちくが 車内で

# 「信さん・炭坑町のセレナーデ」 田川ロケ映画を 宣伝中！



## 炭都物語号・へいちく浪漫号 名場面に飾られた 走る映画館

1 2 3 車内に炭鉱や沿線の風物が描かれた「炭都物語号」。車内は映画ステールやエキストラの写真、山本作兵衛さんの絵画レプリカが炭坑時代の様子を伝えています。4 5 6 平成20年3月にデビューした「へいちく浪漫号」にも写真が飾られ、液晶画面で「予告編」映像が上演中。レトロ調の車内は映画一色です。

**Photographer**

車内展示写真を撮影しました

大久保裕樹さん(金田)

当時は田川市役所の広報担当として、広報・記録のためにロケ現場を撮影しました。炭鉱時代を見事に再現した現場で、タイムスリップした気分を味わいました。写真から、映画では見えない部分や俳優、スタッフ、地元エキストラたちの生き生きとした姿を楽しんでもらえればと思います。



この映画のPRを行っている平成筑豊鉄道の車両は、「炭都物語号」と「へいちく浪漫号」の2両です。「炭都物語号」は、黒いダイヤと呼ばれる石炭の黒をベースに炭坑節でおなじみの二本煙突など田川沿線の風物が色鮮やかにラッピングされています。

### 炭鉱テーマにした映画と車両の相乗効果が地域の活性化に

2008年9月から約1か月撮影され、200人以上の田川地区住民がエキストラとして参加しました。自らもエキストラとして負傷者を運ぶ医師役を熱演し、先行上映会実現に奔走した伊藤信勝田川市長は、「今の人が忘れてきている大切なもの、人の情やふれあいを思い出させてくれるこの映画の背景は、田川そのもの。50代以上の人には懐かしい風景であり、若い人には田川の歴史を知るきっかけになると思う。たくさんの人に見ていただきたい」と熱く語っています。

この映画のロケが田川市を中心に行われ、「労働争議」「落盤事故」「炭鉱住宅」などのシーンが田三井田川鉱業所と松原炭鉱住宅出演しています。

「信さん・炭坑町のセレナーデ」は、飯塚市在住の作家、辻内智貴さんの小説「信さん」が原作。昭和30年代、福岡の炭鉱町を舞台に貧しくも明るく肩を寄せ合って暮らす主人公の美智代とその息子、息子の親友の信さんをめぐるヒューマンドラマです。映画は北九州市出身の平山秀幸さんが監督を務め、美智代役には人気女優の小雪さんを用い、また大竹しのぶさん、福岡市出身の池松壮亮さん、北九州市出身の中尾ミエさんらも出演しています。

### 200人以上の田川地区住民がエキストラとして参加

平成筑豊鉄道株式会社が「炭都物語号」と「へいちく浪漫号」車内で、映画「信さん・炭坑町のセレナーデ」のPRを行っています。田川市を中心に福岡県各地でロケが行われたこの映画が、5月に福岡市で公開されるのに先駆けて、3月13日に田川市で特別に上映されます。今月は福岡町にもなじみが深い炭鉱をテーマにした映画と、全国でも類を見ない同鉄道の取り組みについて紹介します。